

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年1月16日

1. 【厚労省】感染者の療養解除および濃厚接触者の健康観察の期間の短縮について —オミクロン株の急激な感染拡大を受けて—
2. 新型コロナパンデミックの間接的影響：イングランドの小児感染症が激減した

## 【松崎雑感】

昨日、オミクロンは、デルタよりも感染後のウイルス排出期間が長いことを報告しました。今日は、オミクロンは、感染から発病までの期間が若干短いようだという感染症研の報告を示しました。結局、①濃厚接触後7日間経っても発病しない場合は、そこで自己隔離解除、②オミクロンに感染して発病した場合、今までよりも二次感染危険期間が2日間延びるようだという事になります。ややこしいですが、昨日の情報と合わせてお読みください。

感染者の療養解除および濃厚接触者の健康観察の期間の短縮について —オミクロン株の急激な感染拡大を受けて—  
[第67回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（令和4年1月13日）000881512.pdf \(mhlw.go.jp\)](#)

■ 濃厚接触者の健康観察終了の基準

選択1：最終ばく露から7日間経過（なお、感染研の報告では、5%程度の残存発症リスクがあるが、10日目までの健康状態の確認、または検査を組み合わせることで、従来の14日間の待機と同程度のリスクまで下げることが可能。）

・ さらに感染状況が悪化している地域においては、検査での陰性確認、感染予防策、健康状態の確認等を実施できる医療機関等の従事者については、当該機関の責任において7日間の健康状態を確認するとともに、下記の方法により就業を可能とする。

選択2：最終ばく露から5日目に抗原定性検査で陰性を確認した場合

選択3：毎日の抗原定性検査又は遺伝子検査で陰性を確認した場合（医療機関の従事者については実施済）

【根拠】 オミクロン株に感染した場合：  
濃厚接触から7日までに95%が発症

SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統（オミクロン株）の潜伏期間の推定：暫定報告 (niid.go.jp)

国立感染症研究所 2022年1月13日

感染曝露から95%、99%が発症するまでの日数：

アルファ株 8.7日、11.9日

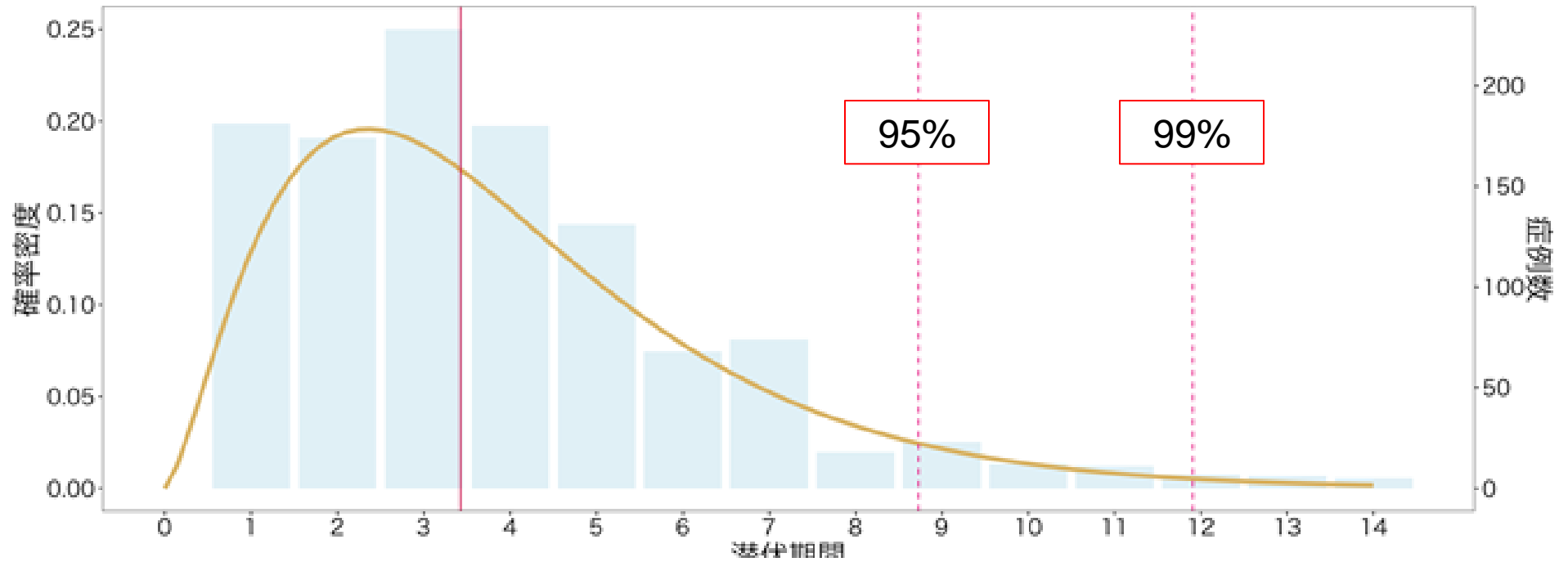
オミクロン株 7.1日、9.7日

※オミクロンが1～2日早い

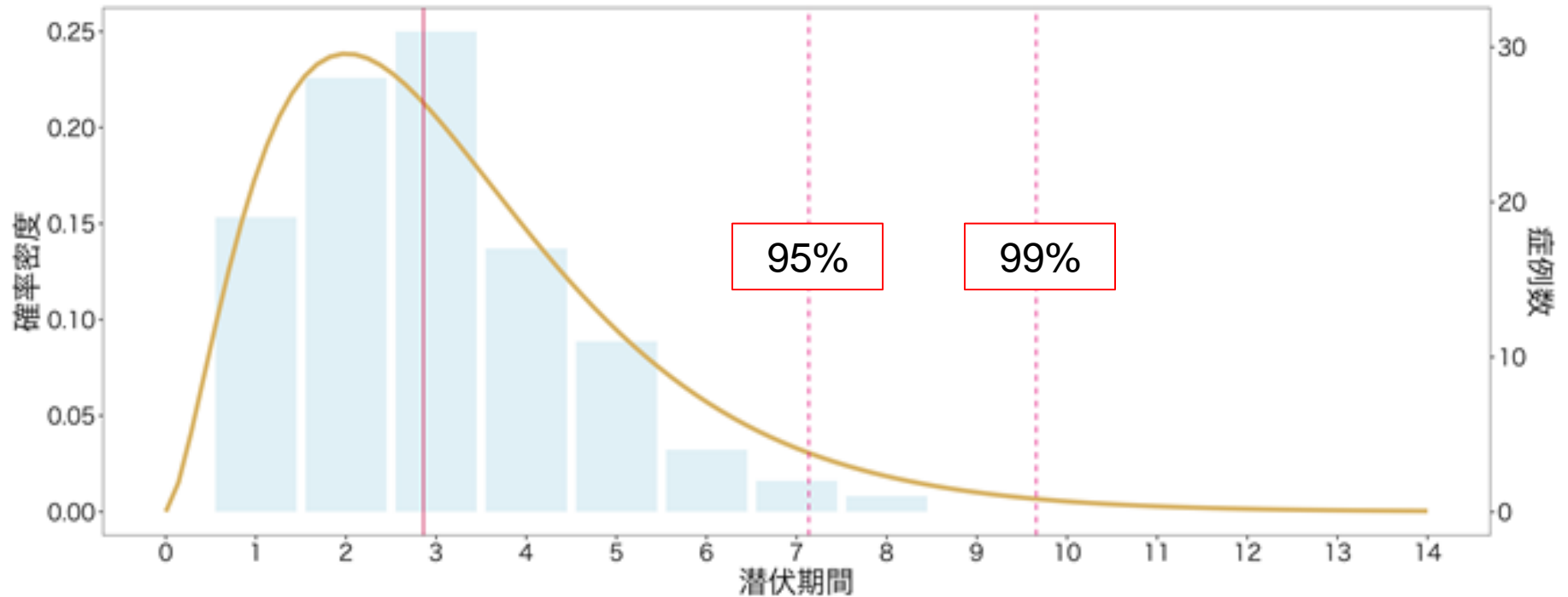
※ 次スライドグラフ参照

# 濃厚接触から発病までの日別発症数

アルファ



オミクロン



## 新型コロナパンデミックの間接的影響：イングランドの小児感染症が激減した

Kadambari S, Goldacre R, Morris E, Goldacre MJ, Pollard AJ. **Indirect effects of the covid-19 pandemic on childhood infection in England: population based observational study.** **BMJ.** 2022 Jan 12;376:e067519. doi: 10.1136/bmj-2021-067519. PMID: 35022215.

### 【概要】

イングランドでの小児感染症は、新型コロナパンデミック以前の3年間と比べて、パンデミック後に2分の1～10分の1に激減しました。

とりわけ、インフルエンザ、麻疹、細気管支炎（RSウイルス）が著明に減りました。マスク着用などの飛沫感染と空気感染をブロックするが、これらの感染症防止に大きな効果をもたらしたわけです。

ただし、人と人の接触が激減したことによる、子どもたちの成長と発達の悪影響も「コラレラルダメージ」として考慮する必要があるでしょう。

2020-21年期÷2017-20年期  
(変動%)

